

令和元年度文化芸術による子供育成総合事業

じゅんかいこうえんじぎょう
一巡回公演事業一

< 公演団体名 梅若研能会 >

かみなり つちぐも
< 狂言「雷」 能「土蜘蛛」の公演 >



「土蜘蛛」の写真（撮影：前島写真店）

「文化芸術による」子供育成総合事業一巡回公演事業一

我が国の一流の文化芸術団体が小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



実施日程	実施校名	地元主催者
令和元年6月24日(月)	盛岡市立向中野小学校	岩手県／盛岡市
令和元年6月25日(火)	花巻市立笹間第一小学校	岩手県／花巻市
令和元年6月26日(水)	青森県立八戸第一養護学校	青森県教育委員会
令和元年6月27日(木)	大館市立釈迦内小学校	秋田県教育委員会
令和元年6月28日(金)	鹿角市立八幡平小学校	秋田県教育委員会
令和元年10月8日(火)	釧路市立朝陽小学校	北海道教育委員会 釧路市教育委員会
令和元年10月9日(水)	釧路市立美原小学校	北海道教育委員会 釧路市教育委員会
令和元年10月10日(木)	札幌市立山の手小学校	札幌市教育委員会
令和元年10月11日(金)	札幌市立平岸高台小学校	札幌市教育委員会

- 梅若研能会の前身である梅若万三郎家の歴史はおよそ600年に遡ります。発祥には諸説ありますが、左大臣橘諸兄を祖とします。初世万三郎は、五十三世実の長男ですが弟の六郎に本家を譲り、現在の万三郎家を起こしました。昭和3年1月に研能会を設立し、以降昭和19年戦争激化のため休会するまで、演能回数は155回を数えます。
- 昭和21年染井の松平家舞台で再開し、以後今日まで毎月公演を継続しております。
- 昭和49年10月に財団法人に改組し、平成24年4月内閣府の認定を受けて公益財団法人となっております。
- 海外公演もベルギー、フランス、ドイツ、ラトビア、イギリス等多くの国々で催行してきました。

知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

きょうげん いずみりゅう かみなり
狂言 和泉流「雷」のあらすじ

みやこ す やぶいしや かせ とうごく たび とちゅう ひろ のほら で
都に住む藪医者(やぶいしや)がひと稼(かせ)ぎしようと東国(とうごく)へ旅(たび)をする途中(とちゅう)、広い野原(ひろのほら)に出(で)た。すると
きゅう そら くら お くも き め みそこ ちじょう
急に空(そら)が暗(くら)くなり、雷(かみなり)がガラガラと落(お)ちてきた。雲(くも)の切れ目(きめ)を見損(みそこ)なって地上(ちじょう)に落(お)ち、
こし ほね つよ う ちりょう めい はり こ いた さわ
腰(こし)の骨(ほね)を強(つよ)く打(う)った。治療(ちりょう)を命(めい)じられた藪医者(やぶいしや)が、針(はり)を雷(かみなり)の腰(こ)に打(うち)込むと痛(いた)がり騒(さわ)ぐ。
なお かえ ちりょうだい せいきゅう も
やがて痛(いた)みが治(な)り帰(かえ)ろうとするので、藪医者(やぶいしや)はあわてて治療代(ちりょうだい)を請(せい)求(きゅう)するが、雷(かみなり)は持(も)ち
あ あめかぜ ひ で すいがい まも やくそく てん
合わせがないため、雨風(あめかぜ)をコントロールして日照(ひ)りや水害(すいがい)から守(まも)ることを約束(やくそく)して天(てん)に
帰(かえ)っていった。

かんぜりゅう つちぐも
能 観世流「土蜘蛛」のあらすじ

みなもと のらいこう げんいん ふめい やまい ふ じじょ ごちよう くすり も みまい き はげ
源(みなもと) 頼光(のらいこう)が原因(げんいん)不明(ふめい)の病(やまい)に伏(ふ)していると、侍女(じじょ)の胡蝶(ごちよう)が薬(くすり)を持(も)って見舞(みまい)いに来(き)て励(はげ)ます
が、思(おも)いに沈(しず)むばかり。やがて夜更(よふ)けに頼光(のらいこう)のもとに怪(あや)しげな僧(そう)が現(あらわ)れ、蜘蛛(くも)の糸(いと)を投(な)げ
かけるが、頼光(のらいこう)に斬(き)られて逃(に)げ去(さ)る。頼光(のらいこう)の家来(けらい)が駆(か)けつけ、血(ち)の痕(あと)を追(お)うと葛城山(かざらきやま)に辿(たど)り
着(つ)く。すると岩陰(いわかげ)から土蜘蛛(つちぐも)の精(せい)が現(あらわ)れ、蜘蛛(くも)の糸(いと)を投(な)げかけて頼光(のらいこう)の家来(けらい)をさんざんに
くろ きいづ き ふ たいじ
苦しめ(くる)るが、最後(きいづ)は切(き)り伏(ふ)せ退治(たいじ)される。

【土蜘蛛】を謡ってみよう

〔後シテ〕なんじしらずやわれむかしー。かずらきやまにとしを
へしー。つちぐものせいこんなりー。

汝知らずや我昔。 葛城山に年を
経し。 土蜘蛛の精魂なり。

かん しょう て び
鑑賞の手引き

「土蜘蛛」は、頼光(のらいこう)やその家来(けらい)たちによる蜘蛛退治(くもたいじ)の物語(ものがたり)で、土蜘蛛(つちぐも)の精(せい)が何度(なんど)も投(な)げ
かける蜘蛛(くも)の糸(いと)がきれいで見事(みごと)です。

登場する人物	前シテ まえ シテ	僧 そう
	後シテ のち	土蜘蛛の精 つちぐもせい
	ツレ	源 頼光 みなもとらのいこう
	ツレ	胡蝶 こちょう
	トモ	頼光の家来 けらい
	ワキ	独 武者 ひとりむしや
	ワキツレ	独武者の家来
	アイ	独武者の下人 げにん
役の説明	シテ	・・・主役のこと。一曲一人で、能面を付ける。
	ツレ	・・・シテに従う役。 「源頼光」病に伏している武将（能面はつけない） 「胡蝶」頼光に仕えている女性（生徒がつとめるので能面は付けない）
	トモ	・・・ツレの一種。シテまたはツレが主人で、その供である場合トモという。
	ワキ	・・・能の脇役。 「独武者」頼光の勇猛な家来であるが、特に誰のことかわからない。
	ワキツレ	・・・ワキに従う人。
	アイ	・・・物語の説明をする役。狂言方がつとめる。
	地謡	・・・シテ方の役者が地謡座という場所に6人～8人が前後二列に正座して斉唱する。
	後見	・・・開演前に能面、装束及び作り物等の点検。 シテの装束付け、上演中はシテの介添役をする。